

緑豊かでゆとりと潤いのある快適な環境と美しい景観の創造をめざして



日造協ニュース

2025.5月 通巻 第614号

Japan Landscape Contractors Association NEWS

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012

令和7年度 国土交通省 国営公園等予算 国費 324億3,200万円

令和7年度の国土交通省都市局の国営公園等予算は、国費324億3,200万円の対前年度倍率1.00倍となった。基本方針では、安全・安心で将来を見据えた持続可能なまちづくりに向けた取り組みを推進。重点課題として、安全・安心・防災・減災・復興まちづくり、まちづくりGXに取り組み、民間事業者等による良質な緑地確保、都市公園等の生物多様性確保の取り組みの加速化を図るほか、2027年国際園芸博覧会の準備を進める。

令和7年度都市局関係予算の公園緑地関係は、安全・安心、防災・減災・復興まちづくりとして、防災公園の機能強化、避難場所等の確保を推進。まちづくりGXとして、地球的・国家的規模の課題である①気候変動への対応(CO2の吸収、エネルギーの効率化、暑熱対策等)や②生物多様性の確保(生物の生息・生育環境の確保等)、コロナ禍を契機とした人々のライフスタイルの変化を受けた③Well-beingの向上(健康の増進、良好な子育て環境等)の社会的要請に対応するため、都市緑地の多様な機能の発揮や、都市におけるエネルギーの面的利用の推進、環境に優しい都市構造への変革を図る取り組み等を進める。

そのほか、地方都市等の再生、都市の国際競争力の強化では、まちなかの賑わい空間の整備を推進。国際競争の強化や2027年国際園芸博覧会の準備や首里城復元に向けた取り組みを進める。

税制改正では、2027年国際園芸博覧会の円滑な開催に向けた所要の措置として公式の参加者に対する非課税措置等を



②生物多様性の確保



③Well-beingの向上



春の叙勲・褒章 3氏受章



村山 優氏

2025春の叙勲・褒章受章者が発表され、日造協関係では、3氏が受章の栄に輝いた。

【旭日双光章】村山 優氏 (74) 村山造園



吉原 修氏



茨木 和幸氏

花と緑の共創会議 和田会長が代表あいさつ

第3回 GREEN × EXPO 2027 花と緑の共創推進会議が4月17日(木)に開催され、当日は、主催者挨拶に引き続き、日本造園建設業協会の和田会長が参加者を代表して挨拶を行うとともに

に、主催者である(公社)2027年国際園芸博覧会協会からのGREEN × EXPO 2027準備状況の説明や日造協の古積東北総支部長など各団体からご発言があつた。

一、激甚化・頻発化する自然災害やインフラ老朽化への対応のため、国土強靭化基本計画を踏まえた計画的な防災公園等の整備や都市公園の老朽化対策の推進
一、2027年に横浜市で開催される国際園芸博覧会の成功に向けた取組の積極的



あいさつする和田会長

支援と所要の予算の別枠での確保
一、適正な施工の確保のため、登録造園基幹技能者等の関連資格の普及及び関連する研修の充実並びに資格保有者の配置の推進

令和7年度 通常総会

講演会・意見交換会

6月26日(木)14:00 ~

ホテルグランドアーチ半蔵門

東京都千代田区隼町1-1

☎ 03-3288-0111

会員の皆様のご参加をお願いいたします。

ご案内 日造協 団体保険制度

日造協団体保険制度は、昭和57年に設けられ、団体のスケールメリットを活かし、非常に割安な保険料で加入でき、広く会員に利用されています。申込締切は、口座振替のご契約が6月23日、振込入金によるご契約は7月4日となっていますので、この機会にご活用ください。

「造園工事の樹上安全作業マニュアル」を発行

建設業労働災害防止協会が発表している建設業の事故データにおいて、「墜落・転落」が約4割と高い割合を占めている。造園業においても、中高木の剪定作業など高所からの転落事故が多い状況である。

そのため（一社）日本造園建設業協会と（一社）日本造園組合連合会では、建設業労働災害防止協会の協力のもと、造園業界における樹上安全作業の統一基準となることを目的に「造園工事の樹上安全作業マニュアル」をとりまとめ発行した。

今号では、このマニュアルの概要および今後の展開について解説する。

1. 樹木剪定の作業環境

樹木の剪定を行う作業環境は、建築工事や土木工事の環境とは異なる。

まず、樹木が植わっている地面は平らであることは少なく、株元には低木や景石、池など多様なものがあり、足場の設置が困難な場合が多い。足場の設置ができたとしても設置・解体に要する時間が剪定の作業時間よりも極端に長いなど合理的な状況である。

足場が設置できない場合は、高所作業車を使用することになるが、狭小の道路や樹林地など樹木に接近することが困難な場所もある。

高所作業車が使用できない場合は、樹木に登り剪定作業（樹上作業）を行うことになる。2m以上での高所作業におい

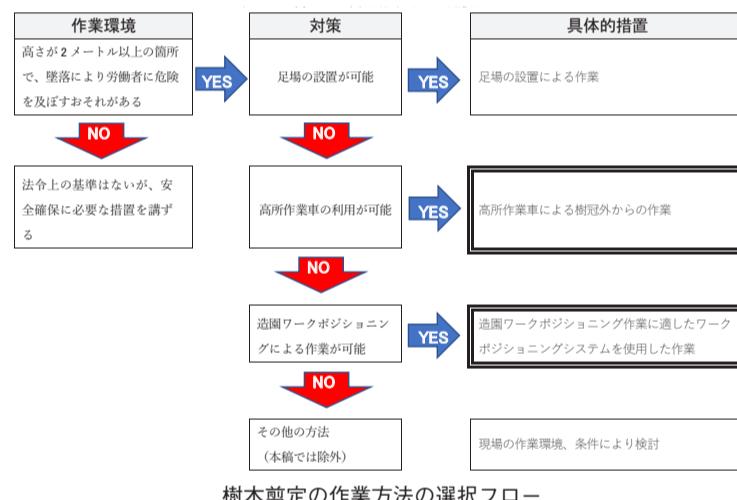
ては、通常、墜落制止用器具を使用することになるが、墜落制止用器具を使用できる前提として「墜落制止時の衝撃力に対し十分耐え得る堅固な取り付け設備」がある必要がある。しかし、樹木は生き物であり、生育環境により個体差が大きいため、取付設備の代用とする幹や枝などが十分耐えうる強度か計算することが困難である。

そのため、樹上作業においては、作業中の姿勢を安定させ、両手で作業できる体勢を確保するとともに、予期しない枝折れや足を滑らせることがあった場合にも身体と樹木に衝撃荷重が生じないよう、落下距離を限りなくゼロに近づけ、墜落に至らない対策が重要である。

2. 作業方法の選択

以上の樹木剪定の作業環境を踏まえると、次の選択フローになる。

なお、ツリークライミング等の技術や



3. 造園ワークポジショニング作業

落下距離を限りなくゼロに近づけ、墜落に至らない対策として推奨する方法が、造園ワークポジショニング用器具を使用した「造園ワークポジショニング作業」である。

造園ワークポジショニング用器具は、樹上でのワークポジショニング作業に適したハーネスとロープ等で構成され、適

切な長さに調節することのできる伸縮調節器を備えたロープを、作業箇所の上部にある幹や枝に回しがけし安定した姿勢を確保することで安全な作業を実現する。

ワークポジショニング作業中は、ワークポジショニングロープ（図②の緑色）と移動用ロープ（図②の赤色）の2本のロープを使用し、常に伸縮調節器によ

り張力をかけたロープをU字吊り状態で使用する。

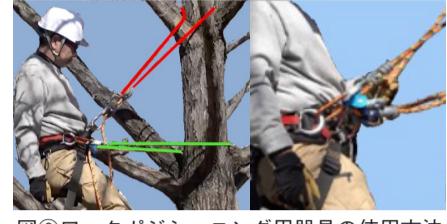
移動時のロープ掛け替え時にも、最低

側部アタッチメントポイント 腹部アタッチメントポイント



どちらか1本のロープに張力をかけた状態を維持することで墜落を防止することができる。

2本のロープによる安定した作業姿勢 収縮調整器による張力の維持



4. まとめ

今回発行したものは、作業方法の詳細を解説した「マニュアル（ダイジェスト版）」と、胸ポケットに入れ現場でも活用できる「ポケット版（造園ワークポジショニング編・高所作業車編）」、それら文中のQRコードから作業方法を動画でも視聴できるようになっているので、ぜひ活用いただきたい。

このマニュアルについては、会員へ周知・説明するとともに、今後は、発注機関や労働基準監督署など関係機関にも周知する必要があるため、必要に応じて説明会を行う予定である。

2025年度の街路樹剪定士研修会では、この造園ワークポジショニング作業について説明し認定試験にも取り入れるため、講師や試験官を対象とした説明会を実施する予定である。

事故を撲滅するためには、作業に関わる方全員が「安全な作業」を心掛けることが大切である。ただ言わされたとおりに安全対策をするのではなく、安全教育やKYT（危険予知トレーニング）活動を実施し、ヒヤリハットを共有するなど、日頃から安全意識を高めていくことが重要である。



「造園工事の樹上安全作業マニュアル（動画版）」

ホームページからダウンロードできます。 <https://www.jalc.or.jp/safety>

「造園工事の樹上安全作業マニュアル」等のQRコード



●その他 参考

○職長・安全衛生責任者教育、ロープ高所作業・フルハーネス墜落制止用器具に関する特別教育の講師を派遣します

日造協の安全部会では、総支部や支部が開催する職長・安全衛生責任者教育、ロープ高所作業やフルハーネス墜落制止用器具に関する特別教育を促進するため、造園に特化した内容を講義できる講師を派遣しています。開催予定については、所属の支部へお問合せください。

○安全管理士・衛生管理士の無料派遣（建設業労働災害防止協会）

建災防は、無料で集団指導（安全大会等の講話）・個別指導（現場パトロール）を実施しています。対象は中小総合建設工事業者等で、指導内容は現場パトロール・安全大会等の安全講話です。対象や制限が少ない有料派遣もあります。

詳しくは、建災防の担当地域を管轄する連絡先支部へお問合せください。

<https://onl.bz/uyptzAm>

これは従来のポスター発表に口頭発表も加え、造園・ランドスケープ分野に関するあらゆる研究や実務に関する事例報告を自由に発表できるセッションです。これにより、専門性や産官学等の立場を超えて知見を共有し、造園学に関する学生や専門家の幅広い交流が促されることを期待しています。

今回は若手からベテランまで、ポスター・口頭あわせて100を超える申し込みがあり、あらためて自由に発表できる場へのニーズの高さが確認できました。今後も、学術論文発表会（査読を経た論文の口頭発表セッション）やミニフォーラム、企画展示などとあわせ、多様な発表や交流の機会を充実させていきたいと考えています。

今回の大会ではまた、従来のデザイ

ンコンペにかわる企画として「アイデアコロキアム」が開催され、開かれた対話のプラットフォームのなかで新たな都市像を共に議論する機会が提供されました。

さらに、女性や外国籍の人を含む多様な主体の社会参加が重視される時代であることを踏まえ、造園学会の強みである「自然と人との関わり」を見つめる視点を活かし、学会員の家族やキャンパス近隣の子どもたちが参加可能な自然体験プログラムを実施しました。これらはすべて、若手の運営委員会メンバーからの提案によるものです。

こうした次世代の新しい発想と行動力が、全国大会のみならず学会の次の100年を切り開く大きな力となることを期待しています。

学会の目・眼・芽 第142回

100周年記念全国大会－次の100年に向けて

（公社）日本造園学会会長、全国大会運営委員長、東京大学大学院 教授 大黒 俊哉
日本造園学会は今年、創設100周年を迎えました。このニュースが皆様のお手元に届く頃にはちょうど100周年記念全国大会が開催されていることと思います。

今大会では「百の景の行く先」をテーマとして掲げています。この「百」にはさまざまな思いが込められています。「百年という歳月。その歳月の中で数多の景を生み出し、また守ってきたこと。そして、細分化すれば百あるかもしれない。今日の造園・ランドスケープ分野の職能と専門性。これらをすべて含み、本大会は「百の景の行く先」を全体テーマとし、私たちの現在

100年の歳月を経て、造園・ランドスケープ分野における職能と専門領域は大きく発展・拡張し、造園学会の活動も現在、学術・技術・芸術・政策等の多様な分野にまたがって展開しています。

私たちは、全国大会がこうした多様なバックグラウンドを持つ学会員の交流をより強める機会になるとと考え、新たな取り組みを進めてきました。そのひとつが、研究・事例発表会の開催です。

日造協支部の活動報告 各支部においてもさまざまな取り組みが進んでいます

四国総支部と四国地方整備局 災害応急対策業務で締結

日造協四国総支部は、国土交通省四国地方整備局と3月4日㈫、災害応急対策業務の協定を締結した。

この締結は、四国総支部の広範な会員から、災害復旧に必要な多くの人員と造園施工業者が保有する小型重機や機材を迅速に確保し、災害の早期復旧につなげるためである。

一般的の土木工事で使う大型の建設機械では入れない現場において、小回りの利く重機や機材を使用する造園工事で培った経験が期待される。

能登半島地震の教訓を踏まえ、高度の専門性を備えた多様な主体と一体となった災害対応体制強化の一環、特に四国では、南海トラフ地震など大規模災害が発生した際に、建設機材や資材、復旧に従事する技術者の不足が課題となっている。

そのため、今回の締結は、直轄管理だけでなく、自治体の施設も含め管内の自

然災害や人的災害など様々な場面に対応できる内容となっている。

協定締結式は、高松市のサンポート合同庁舎で行われ、高須賀四国総支部長は「災害発生時には、四国の会員60社がいち早く駆け付け、地元の役に立てる活動をしていきたい」と決意を語り、豊口四国整備局長は「力強い支援に感謝する。国、自治体、協会が連携し、地域の発展にも寄与していきたい」と述べた。

なお、日造協では、全国各地で各地方整備局や開発局、自治体と防災協定を締結している。地震による災害復旧はもとより、台風や大雪により道路をふさぐ倒木をチェーンソーによる撤去、洪水時には動力噴霧器（普段は灌水・薬剤散布等に使用）による学校や保育園遊具の洗浄作業、小型バックホウや小型トラックによる民家近接の土砂撤去作業などさまざまな復旧活動を行った実績がある。



植物を生かした「花と緑の復興支援」 造園の仕事は「心を癒し笑顔もつくる」

令和6年1月1日の能登地震では石川県だけでなく富山・新潟でも大きな被害を受け、復旧にあたり日造協の仲間から多くのご支援をいただき全国に仲間がいることを実感し励まされ勇気をいただきました。

改めて、心からお礼を申し上げます。



日造協石川県支部では能登の復旧支援にどの様に関わることが出来るかを考え能登地区で被災された会員の方からもご意見をいただき、造園業界らしい支援をしていきたいと考え、植物を生かした「花と緑の復興支援」を行うこととしました。

北陸総支部や石川県造園緑化建設協会にも協力いただき、まずは輪島市門前町の仮設住宅8カ所に事業を行うことになりました。

この「花と緑の復興支援」は、住民の方と触れ合うことが大切と考え一緒に土や花に触れて作業を楽しんでいただくようにし、植え込む植物も単年性ではなく多年性の植物を選定することで、プランターを飾った後も世話をしていく成長も楽しんでいただける内容にしました。

作業中は、おっちゃん・おばちゃん達の笑顔や笑い声を聞き、時には震災時の話なども聞かせていただきながら楽しい時間を過ごさせていただき、この事業を企画してよかったです！と実感し、そして植物のもつ癒しの力に気づかせていただきました。



私達の造園業は景観や環境だけではなく、「心を癒し、笑顔を作る」仕事であり被災地だけでなく、いま社会にとって最も重要な業種であると教えてもらいました。

復興には、まだまだ時間が掛かりますが石川県支部として能登に笑顔を増やす活動を続けてまいりたいと思います。

石川県支部支部長 北 総一朗

美しい景観へ モデル剪定講習会を実施 伝わりにくい剪定技術を伝える機会に

日造協近畿総支部は、兵庫県阪神南県民センター西宮土木事務所より、依頼をいただき、モデル剪定講習会の講師を派遣しました。

モデル剪定講習会は、「美しい景観育成を目的とした剪定方法の統一を図る」ため、同事務所が実施されていましたがコロナ禍で開催できなかった講習会で、今回は道路植栽維持管理業務受託業者10名と同事務所職員5名を対象に、兵庫県尼崎市内の昭和本町通線・街路樹(ケヤキ)で実施しました。

当日は、講師により事前準備と見本剪定を実施。見本剪定施工後の樹木を見ながら枝の切除方法・樹形の造り直し方・街路樹としての役割や統一美の説明を行った後、同事務所管内3路線の受託者各1本の計3本を剪定しました。

剪定後は1本ずつ講評を行いましたが、受託者は造園業の方々で、見本剪定



があると同じように剪定することができており、同事務所から、後の剪定作業に繋げていっていただきたいとの好評を得て、講習は終了しました。

西宮土木事務所は、平成30年度に「西宮土木事務所街路樹リノベーション計画」を策定されるなど、街路樹の良好な管理への意識が高く、講習では職員の方々も熱心に耳を傾けられ、受託者さんも終了後にさらに質問に来られるくらい有意義な講習になりました。

今回のモデル剪定講習会を経て、「街路樹剪定士」の役割として安全性の向上はもちろんですが、総支部としても文字や言葉では伝わりにくい剪定技術をどのように伝えていくか、伝える側として大いに勉強させていただく機会となりました。

近畿総支部技術委員長 的場 盛州



最新バージョン登場！

07CAD 造園・エクステリアCAD 2025

AIで
快適作図

造園業者様向け
見積・積算
標準搭載

建物内観
キレイが進化

お得で最新の情報を配信中



07CAD2025
特設サイト



07° オーセブン株式会社

〒338-0004 埼玉県さいたま市中央区本町西6-4-14
048-840-1577

ふる
と
自
慢
栃木
県

足利が生んだ書家・詩人 相田みつをさんにちなんだ場所

栃木県足利市といえば、「あしかがフラワーパーク」や「足利学校」が有名ですが、今回は足利が生んだ書家・詩人の相田みつをにちなんだ場所を紹介します。

初めに足利学校からほど近くの高福寺です。

相田は高福寺の武井哲應師の元に参禅し、師の教えは相田の書に多大な影響を与えました。毎週日曜早朝に座禅会も行っており相田みつをも参禅した空気を体験できます。

お食事は足利学校そばの「めん割烹なか川」で。「なか川」の初代女将が相田の書を購入し、生活が苦しかったころの相田を支えました。お店には多くの相田の書が飾られており、書を見ながらおそばが食べられます。在来種のそばを使った「二八そば」や江戸時代の食べ方である「そば抜き」、変わり種の「そばクレープ」などここでしか食べられないものがいっぱいです。

お土産は香雲堂本店の「古印最中」がおすすめです。こちらもパッケージデザインを相田みつを



足利学校そばの「めん割烹なか川」

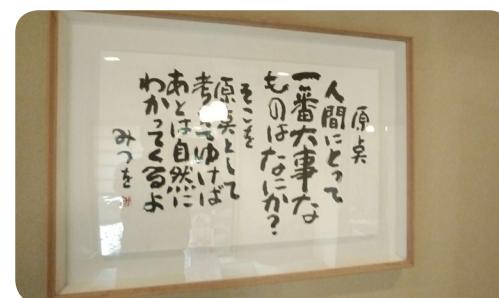


香雲堂本店

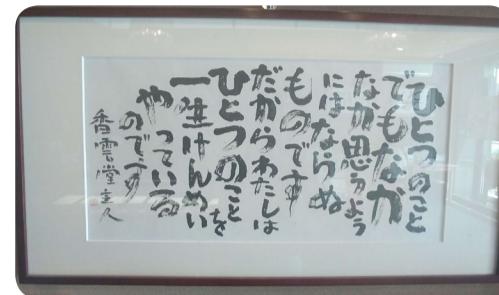
が行っており、店内に相田の書が飾られています。最中はあんこが甘すぎず、くどくないため最中なのにさっぱり食べられます。

足利市にはあしかがフラワーパークや足利学校だけでも多くの魅力があります。ぜひお立ち寄りください。

栃木県支部 増田 博一(株増田造園)



多くの相田の書が飾られている



香雲堂のパッケージは相田がデザインした



ここでしか食べられないものがいっぱい



お土産におすすめの「古印最中」



相田が参禅した高福寺



毎週日曜早朝に座禅会を行っている

第17回 造園技術フォーラム申込開始

第17回造園技術フォーラムの申込を開始します。ぜひ、ご参加ください。

【開催概要】

日時: 7月3日(木) 13:00 ~ 16:30 (予定)
会場: ① KKR ホテル大阪(定員180名:先着順)
② WEB配信(定員100名)

内容: 第1部 造園の技術発表・講評
第2部 未来の防災都市の2025大阪・関西万博開催記念講演

締切: 6月6日(金)

費用: 一般=2,000円

日造協・造園学会会員、学生=無料

主催: (一社)日本造園建設業協会

協力: (公社)日本造園学会

現地出席



WEB配信



申込: 上のQRコードからお申し込みください。

造園技術が
百の景を造る
造園技術フォーラム 2025
ZOEN TECHNOLOGY
FORUM in Osaka

2025年 7月3日(木) 13:00-16:30
会場: KKR ホテル大阪
※森の宮駅から徒歩5分
協力: (一社)日本造園建設業協会
(公社)日本造園学会
● ● 全国の先進技術発表
● ● 賛助会員の商品紹介
● ● 新規会員登録



新入会員のご紹介

社名/住所 代表者/FAX

(有)溝済造園 溝済 良造
香川県高松市多肥上町 1115-1
087-889-1339 FAX 087-889-1337



社名/住所 代表者/FAX

(株)山ノ井造園 山ノ井 政志
川崎市宮前区潮見台67グリーンヒルズ潮見台202
044-975-3442 FAX 044-978-4567



ようこそ日造協へ!

日造協賛助会員の紹介 (株)タウ

損害車リユースをコアに「モノや人が大切にされ続ける循環型社会」へ

社名/住所 代表者/FAX

(株)山ノ井造園 山ノ井 政志

川崎市宮前区潮見台67グリーンヒルズ潮見台202

044-975-3442 FAX 044-978-4567

URL: <https://tau.co.jp/>

問合せ: E-mail: h-namiki@tau.co.jp



株式会社タウ
〒330-6010 埼玉県さいたま市中央区
新都心 11-2 LA タワー 10F
URL: <https://tau.co.jp/>
問合せ: E-mail: h-namiki@tau.co.jp

● 2027年国際園芸博覧会特別委員会

4/17 花と緑の共創推進会議に参加



玄界灘で釣りを楽しむ

(株)鶴松建設

佐賀県支社

鶴田久美子

佐賀県支社

建設部

</